

## 市長提案説明要旨

平成27年9月2日

本日ここに平成27年第3回鹿嶋市議会定例会の開会に当たり、市政運営に関する所信の一端と、当面の事業概要並びに提出しました議案等の説明を申し上げます。

### (はじめに)

はじめに、去る8月31日に挙行いたしました市制施行20周年記念式典に際しましては、茨城県、県選出の国会議員をはじめ、県議会議員、市議会議員、鹿行を中心とした隣接市町など、ご来賓の皆様のご臨席、また、市民の皆様のご列席を賜り、ともに祝福することができましたことに対しまして、厚くお礼申し上げます。

式典では、市勢の発展に寄与された皆様や功労があった皆様177個人・41団体に対しまして、その功績とこれまでのご労苦を称え、市民栄誉賞、自治功労賞、市民功労賞、そして善行賞として表彰させていただきました。

また、第2部では、本市出身の野口典夫氏が、鹿島開発を題材に製作した短編映画「海ガメの約束」を上映したほか、この作品に出演された、かしま大使である研ナオコさんと相川七瀬さんに舞台挨拶を行っていただき、格調高い式典に華を添えていただきました。

さらに、前日の8月30日には、前夜祭として開催した、研ナオコさんのデビュー45周年記念コンサートを、多くの皆さんにご観覧していただき、市民の皆様とともに記念すべきお祝いの日を喜び合えたことに感激しております。

20年という歳月につきましては、さまざまな出来事の積み重ねでありました。人間的で真に豊かな生活が実現できる「うるおいのある産業・文化都市」の形成を目標に市政をスタートさせて以降、市民一丸となって、順風にもおごらず、逆風にもめげない、謙虚と思慮を持ち合わせた姿勢を貫き、本市の基礎を着実に固めることができたものと思っております。既に、30年先、50年先のまちづくりに向けたスタートを切っておりますが、鹿嶋市のより一層の発展と市民の皆様が「幸せを実感できるまち」の実現に向け、さらなる努力を傾注してまいり所存でございます。議員各位におかれましては、引き続き、市政運営にご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

### (国内情勢)

次は、国内の社会経済情勢であります。

内閣府の月例経済報告（8月）によりますと、景気の基調判断を、「緩やかな回復基調が続いている。」と、5箇月連続で据え置いた一方、先行きについては、

「雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。」としております。

しかし、先月発表された4月から6月にかけての実質国内総生産（GDP）の速報値では、年率で前期比1.6%減と、三四半期ぶりのマイナス成長に沈んでしまいました。中国経済の減速に伴う輸出の不振と個人消費の伸び悩みが、主因とのことですが、消費増税後の景気低迷から抜け出しつつあった日本経済の足取りは依然として重く、再び踊り場を迎えているようです。

このような社会経済情勢のもと、本市の財政状況につきましては、今後も厳しい状況が続くものと認識しておりますが、限られた予算や人員などの行財政資源をより効果的、効率的に活用し、多種多様な市民ニーズや新たな行政需要に的確に 대응してまいりたいと考えております。

### <事業の概要等>

続いて、鹿嶋市のまちづくりの実績と当面の事業概要についてご説明申し上げます。

#### (重点プロジェクト・人にやさしいかしまプラン)

まずは、人口減少・超高齢化という国難に対応して、国と地方が総力を上げて取り組む「地方創生」についてであります。

既に報道等でご存知の方も多いかと思いますが、市では、去る7月6日、総合戦略等を策定するに当たり、創生本部と連携して取り組む“産官学金労言”を代表する有識者20人によって組織する「鹿嶋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」を立ち上げ、これまで、2回にわたり会議を開催してまいりました。

会議においては、戦略会議の所掌事務や今後のスケジュール等を確認するとともに、昨年度の国の補正予算において創設された、総額300億円に及ぶ地方創生先行型の上乗せ交付金の獲得に向けた実施計画等について、慎重に協議していただいたところです。

引き続き、この戦略会議におけるご意見等を十分反映させることに加え、次世代を担う子どもたちや若者、仕事や子育て中の女性など、幅広い市民の皆様の声をお聞きしながら、5箇年を目標とする地方版総合戦略の策定に当たりたいと考えております。

#### (スポーツ先進のかしま)

今夏も、市内のスポーツ界は大変な盛り上がりを見せております。

既に、サッカー、ソフトテニス、バドミントン、卓球、エアロビクス、レスリング、剣道、柔道、弓道、水泳、サーフィンなどの種目で53個人・12団体の皆さんが、厳しい予選を勝ち抜いて全国大会に出場し、全国に「スポーツ先進のまち鹿嶋」の名を広めていただいております。

特に、野球競技の活躍が目覚ましく、本市出身で立教大学3年生の佐藤拓也選手が、大学野球日本代表チームの一員として、韓国光州広域市において開催された“学生のためのオリンピック”こと「第28回ユニバーシアード競技大会」に出場し、主力選手としてチームを優勝に導いたほか、平井中出身で東海大学付属相模高等学校3年生の磯網栄登選手が、創設100年の節目を迎えた「第97回全国高等学校野球選手権大会」に出場し、連続安打と最高打率、ともに歴代の甲子園記録に迫る華々しい活躍を見せ、同校を全国3,906校の頂点に導き、優勝の真の立役者となるなど、本市出身の皆さんの国内外での活躍が顕著に見られたことは、同じ鹿嶋市民として誇らしい限りであります。

こうした世界・全国レベルでの選手の皆様の活躍に敬意を表するとともに、それを支えておられる指導者並びに関係者・ご家族の皆様のご尽力に深く感謝とお礼を申し上げます。

我らが鹿島アントラーズにおいても、常勝軍団の復活を託された石井監督就任以降、往年の力強さを彷彿させる盤石の試合運びで、無傷の6連勝を飾り、首位の座を堅持しております。リーグ戦も中盤に入り、気が抜けないゲームが続きますが、一戦一戦ベストを尽くしながら、勝利を掴み取っていただきたいと思えます。そして、6年ぶりとなるリーグ制覇に向けて、多くの市民の皆様にはスタジアムに足を運んでいただき、力強い声援をお願いいたします。

市内においても、8月には、平井海岸を会場に、「アントラーズカップ2015鹿嶋ビーチサッカー大会」をビーチバレーやビーチランなど、海をテーマとしたイベントとともに「カシマビーチフェスタ2015」として開催したほか、今年で23回目を迎える「鹿嶋サッカーフェスティバル」を市制施行20周年記念事業として開催しました。ジュニア、ジュニアユース、ユース、レディースの各部門に、全国各地から105チーム、総勢1,915人もの選手が参加され、延べ11日間に渡る熱戦が繰り広げられました。市内から出場したチームの成績は、ジュニアの部で鹿島アントラーズが優勝するなど、それぞれのカテゴリーで優秀な成績を収めました。今年も、全国高等学校サッカー選手権大会の常連校である富山第一高校や矢板中央高校などが参加されたほか、姉妹都市である韓国西帰浦市の西帰浦高校を招待するなど、大会は大きな盛り上がりを見せました。

今後も、このようなスポーツイベントの開催や、様々な分野で活躍する選手・関係者の支援を行い、本市の基本目標である「スポーツ先進のかしま」づくりを推進するとともに、スポーツによる交流人口の更なる拡大を目指してまいります。

#### (住みよいかしま)

医師不足に悩む鹿行南部の医療提供体制を改善するため、今月6日、神栖市の神栖済生会病院内に「鹿行南部地域夜間初期救急センター」が開設されることに

なりました。運営は、鹿島医師会によるもので、毎週日曜日の夜間、高校生以上を対象に急な発熱や腹痛、切り傷など軽症の救急患者の診療が可能となり、重病患者を対象とする救急病院の負担軽減につながるものと期待されております。

地域医療対策につきましては、鹿行南部地域を構成する3市において連携を図りながら継続的な取り組みを行っているところですが、同センターにつきましても、その一環と捉え、神栖市や潮来市とともに、運営補助を行ってまいります。

また、なめがた総合病院では、本年4月より4人の医師が増員されたほか、市内の二次救急告示病院である小山記念病院では、救急患者の受け入れ体制の強化により、「断らない医療」が展開され、昨年度における鹿島地方事務組合・鹿行広域両消防本部からの救急搬送件数が、平成24年の1.4倍に当たる2,645人になるなど、官民を挙げた関係者の懸命な努力により、鹿行地域の二次救急医療体制の一層の強化が図られつつあります。

今後も、円滑な受入れと適切な医療が行えるよう医療機関への支援を図るなど、救急医療の更なる充実に努めてまいります。

市では、少子化の大きな要因である未婚化、晩婚化の流れに歯止めをかけるとともに、地域における後継者を確保するため、本年4月、こども福祉課内に少子化対策室を設置し、以来、独身男女による結婚活動支援事業を推進しております。

去る8月16日には、サッカースタジアムなどを会場に、本市初となる婚活イベント「恋愛モテセミナー&Love Action ～サッカーが結ぶあなたの幸せ～」を開催しました。セミナーでは、婚活のコーディネーターから、自身の魅力を向上させ、恋愛や結婚につなげる方法を学び、その後のパーティーでは、アントラーズの試合観戦を盛り込むなど、本市ならではの魅力を活かした事業を展開した結果、参加者の約4割に当たる9組のカップルが誕生し、大きな成果を上げることができたと感じております。

今後も、こうしたイベントなどを通して、引き続き、若者の結婚に対する意識を醸成し、成婚率が高まるよう支援してまいります。

今年も、地区の皆様の協力の下、12の小学校区と7つの高齢者福祉施設などで、高齢者の皆様の長寿と健康をお祝いする「敬老会」を開催します。対象となる今年73歳以上となる方は10,061人で、うち、100歳を超える方は30人と、年を追うごとにご長寿の顔ぶれが増えており、毎年、元気なお姿を拝見させていただくことをとても楽しみにしております。

開催に当たりましては、地域の皆様方には大変ご苦勞をおかけしているところですが、「高齢者をたたえ、長寿をお祝いする事業」が健康意識の醸成につながり、「高齢者を敬う地域づくり」が地域の結びつきを深めるきっかけとなるなど、私が理想とする“ご近助”活動にもつながるものとして、ご協力をいただきますようお願いいたします。

本市のシルバー人材センターは、設立以来、高齢者の就労促進と生きがい対策の拠点として、大きくその規模を拡大してまいりました。そして今般、新たな事業展開を図るため、宮中地区にある空き店舗を活用した新店舗の開設に向け準備が進められております。

この店舗では、リサイクル品の販売スペースと健康体操などの文化・趣味活動ができるスペース、さらには高齢者のサロン活動にも対応できる空間を整備することであり、高齢者の新たな交流拠点となるほか、宮中地区商店街の賑わいづくりに貢献していただけるものと、期待を寄せているところです。

市といたしましても、高齢者が豊かな知識や能力を活かし、幅広く社会に参加され、貢献していただけるよう、今後とも、シルバー人材センターの運営を支援してまいりたいと考えております。

国道51号バイパスの新神宮橋につきましては、老朽化が著しい神宮橋の負荷軽減を図るため、国土交通省において、完成断面となる4車線化に向け事業化に取り組まれております。今年度には、環境調査、地質調査、橋梁設計を進めるとともに、間もなく、大船津北及び南交差点において、改良工事を着手することであり、本市における、安全・安心な道路ネットワークの形成や都市間のアクセス向上につながるものと期待しております。

工事期間中、市民の皆様には、大変ご不便をお掛けいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

主要地方道茨城鹿島線と一部が重なる、都市計画道路宮中・佐田線の未供用区間につきましては、現在、茨城県において、神野押合線交差部から下埞地内の旧国道124号に至る延長945mについて、道路改良工事を推進しております。また、区間内にある仮称：猫鼻橋と仮称：下埞跨道橋につきましても、橋梁本体の工事が進められており、その先線となる国道124号バイパスまでの区間についても、事業化が検討されているところです。本路線には、通勤時の渋滞解消や大型車輛の通行に対する安全確保、さらには、鹿島港外港地区公共埠頭の一部供用開始に伴う物流機能の充実が求められており、国道124号バイパスから県道粟生木崎線までの新設区間も含め、一体的に整備することが望ましいのは改めて申すまでもありません。

これら国・県道の新設路線や未整備区間の早急な整備促進を図るため、地元企業や各種団体とも連携を図りながら、事業主体である国や県に対し、要望活動を積極的に展開してまいります。

(活力あるかしま)

8月29日には、今年で37回目を迎える恒例の鹿嶋市花火大会が、大船津の北浦湖畔にて、盛大に開催されました。停滞前線の影響もあり、この時期にしては肌寒く、小雨交じりの空模様となってしまいましたが、打ち上げられた約12,000発の花火が、晩夏の夜空と北浦の水面を彩りました。オープニングを飾ったワイドスターメインや音楽に乗せたミュージックスターメイン、そして、フィナーレを飾った関東一の「尺玉108連発」は、“圧巻の一言”に尽き、湖畔から大きな歓声と拍手が沸き起こっておりました。

観光協会役員をはじめとする実行委員会のご尽力により、市制施行20周年の冠事業として開催させていただくことが出来たことに心から感謝申し上げます。

### (人が輝くかしま)

今年4月の組織改編により女性支援室と少子化対策室を新設したことを記念し、去る6月21日、まちづくり市民センターにおいて、「女性力を活かした地域創生」と題したシンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、共催の立場で参加いただいた茨城大学人文学部の清山玲教授による基調講演に続き、育児中の母親や未婚女性を迎えてのパネルディスカッションを行い、「孤立化する子育てへの対応と未婚女性への支援」をテーマに、安心して子どもを産み・育てることができる環境づくりや行政支援などの定住増加策について、ともに考えました。

本市の活力を創出するためには、女性の社会進出が大変重要な役割を果たします。現在、策定中の地方版総合戦略においても、女性の声を十分に活かしながら、地方創生に着実に取り組んでまいりたいと考えております。

本年4月1日、「改正地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が施行されました。今回の改正は、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長と教育委員会との連携強化など、現行制度の抜本的な改革を行うものであり、本市においても、改正の趣旨を踏まえ、順次、教育行政の改革を推進しているところです。

その一環として、8月19日には、首長と教育委員会が、連携して教育行政を推進していくために協議・調整を行う「鹿嶋市総合教育会議」を設置し、初めての会合を開催しました。今後は、本市教育の振興のための基本理念、基本目標を定め、その実現のための施策体系や重点事業を明らかにする「鹿嶋市教育大綱」の策定に向けて協議を進め、あわせて様々な教育施策についても、調整してまいりたいと考えております。

また、教育長と教育委員長のポストを一元化した「新教育長」の設置につきましては、現教育長の任期が満了する時点までの間は、現行どおりとする経過措置が設けられているところですが、速やかに新制度へと移行するため、新教育長を任命してまいりたいと考えております。

今定例会において関連議案を提出しておりますので、議員各位におかれましては、ご審議のうえ、ご賛同賜りますようお願いいたします。

そして今般、旧保健センター跡地において、学校教育に関する今日的課題の相談・研究や教職員研修などに加え、不登校児童・生徒対策の充実を図り、学校生活への復帰などを支援する適応指導教室「ゆうゆう広場」を行う、本市教育の拠点施設として「鹿嶋市教育センター」を開設することにしました。

今後は、教職員の資質向上はもとより、教育センターにおいて実施される、様々な調査・研究・指導などの成果を通じて、本市の教育に関する政策形成に寄与することを期待しております。

### (頼もしいかしま)

東日本大震災と同様に震度6弱の地震発生を想定した「鹿嶋市総合防災訓練」を、来る10月31日、豊郷小学校において開催します。この訓練によって、災害発生時において防災関係機関と市民が連携しながら対応する人命救助や避難所の在り方などを再確認することで、安全・安心な地域づくりを進めるとともに、市民一人ひとりの防災意識の高揚を図ってまいります。

平成23年3月に発生した東日本大震災に伴う、東京電力福島第一原子力発電所の事故につきましては、現在、廃炉に向けた作業に、多くの時間を費やしながら取り組まれています。一方で、今なお、多くの方々が避難生活を余儀なくされるなど、その影響を色濃く残しているところです。

本市におきましては、大同東地区で基準値を上回る残留放射線濃度が測定されたことから、計画に基づき除染作業を行うとともに、市全域を対象とした放射線走行サーベイを、平成24年度から3年に渡り実施してまいりました。その結果、基準値を上回る残留放射線が測定されなかったことから、今後は国の汚染状況重点調査地域の指定解除に向けた調整に入りたいと考えております。しかしながら、残留放射線が人体に及ぼす影響を考慮し、今後も、国・県と協力しながら、監視活動を継続してまいります。

### (自立したかしま)

10月1日を基準日として、20回目となります国勢調査が全国で実施されます。この調査は、5年に一度、すべての人と世帯を対象に実施される国の最も重要な統計調査であり、国や各地方自治体の行政施策を判断するための基本数値となるもので、本市においても人口の推移が気になるところです。今回の調査からインターネットによる回答も可能となりますので、市民の皆様には積極的にご利用いただきながら、正確な調査結果の取りまとめにご協力をお願いいたします。

同じく10月から、「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利

用等に関する法律」,いわゆる“マイナンバー法”に基づき,市民の皆様,一人ひとりに割り振られる12桁の個人番号が順次,通知されることとなります。本人からの申請により来年1月には,個人番号カードが交付され,さらに平成29年7月からは国の情報ネットワークを利用した情報連携が開始される予定となっております。本市におきましても,自治体クラウドを利用したシステムの構築を進めており,今後も,庁内関係部署が連携を図りながら,制度の円滑な導入に向けて準備を進めてまいります。

以上,まちづくりの実績と当面の事業概要について,ご説明申し上げます。

#### 《決算認定》

次に,本議会で認定をいただく,平成26年度決算についてであります。

一般会計において,歳入総額は,前年度に比べ,3.5%減の264億8,080万2千円,また,歳出総額は,249億743万円と前年度に比べ,1.6%の減となっております。差引額は,15億7,337万2千円で,翌年度への繰越財源を差し引いた実質収支は,10億7,282万2千円と前年度に比べ,63.5%の増となり,財政調整基金へ6億円を積み立てし,翌年度への繰越金が4億7,282万2千円となりました。

また,財政構造の弾力性を示す経常収支比率は,前年度と比べて0.3ポイント上昇し89.7%となりました。公債費負担比率は,10.5%で前年度に比べ,0.3ポイント上回りました。この要因は,大震災以降臨時的な一般財源が増加していましたが,それが減少してきたことによるものです。今後も,公債費負担比率は同程度で推移しますが,引き続き,新規借入れの抑制に努め,将来世代の負担軽減を図ります。

特別会計は,総計としまして,歳入が5億9,713万2千円増の154億8,284万6千円,歳出が7億4,806万3千円増の148億8,923万6千円となっております。

なお,特別会計は,歳入歳出の差引額が5億9,361万円となり,一般会計と併せて,堅実な財政運営をすることができました。

議員各位のご協力と市民の皆様のご理解のもと,引き続き,効率的な予算執行を心掛けるとともに,将来を見据えた,計画的な財政運営を推進してまいります。

#### 《提出議案等》

次に,提出しました議案について,ご説明申し上げます。

提出議案は,予算関係議案が6件,条例関係議案が3件,人事関係議案が1件,その他の議案が1件,契約関係議案が5件,認定議案が3件,合わせて19件であります。



まず、予算関係議案は、平成27年度一般会計と特別会計の補正予算に関するものであります。

一般会計補正予算については、還付金関係経費、全国住民基本台帳ネットワークシステム事業、母子・父子対策事業、道路維持補修費、その他の市道整備事業、雨水排水整備事業、小学校大規模改造事業、公民館施設整備事業、茨城国体施設整備事業などを計上しております。

国民健康保険特別会計補正予算については、平成26年度決算に伴い、国庫支出金等返還金を計上しております。

介護保険特別会計補正予算については、平成26年度決算に伴う、国庫支出金等返還金と、一般会計への繰出金などを計上しております。

下水道事業特別会計補正予算については、公共下水道整備事業などの増減額を計上しております。

水道事業会計、大野区域水道事業会計補正予算については、職員給与費の増減額を計上しております。

次に、条例関係議案は、新たに制定するものが1件、改正するものが2件、合わせて3件であります。新たに制定する条例は、「鹿嶋市教育センターの設置及び管理に関する条例」であり、改正する条例は、「鹿嶋市手数料徴収条例の一部を改正する条例」などであります。

人事関係議案は、教育委員会教育長の任命に当たり、議会の同意を求めるものであります。

その他の議案は、市道路線の認定についてであります。

契約関係議案は、鹿島神宮駅周辺（西側）地区と平井東部地区において、液状化対策工事を実施するに当たり、工事請負契約について、議会の議決を求めるものです。

認定議案は、「平成26年度鹿嶋市一般会計及び特別会計歳入歳出決算認定について」などであります。

以上で説明を終わりますが、なお詳細につきましては、お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。